

青森県経済統計報告

平成16年 5月 7日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成16年4月1日現在）…………… 1

県人口	1,452,455人	(対前月 5,704人減少、対前年同月 7,113人減少)
自然動態	243人減少	(出生者数 1,036人、死亡者数 1,279人)
社会動態	5,461人減少	(転入者数 4,532人、転出者数 9,993人)

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済の動向をみると、鉱工業生産指数や個人消費の一部に明るい動きがみられるものの、安定した動きとなっておらず、全体として厳しい状況が続いている。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成16年2月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が91.9で、前月比4.2%の上昇(3ヶ月連続)、また、原指数が85.3で、前年同月比12.2%の上昇(2ヶ月ぶり)となった。
〔化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が86.2で、前月比6.1%の低下(3ヶ月ぶり)、原指数が81.6で、前年同月比3.9%の上昇(3ヶ月連続)となった。〕 …… 2
- (2-2) 雇用情勢 平成16年2月の現金給与総額は238,512円で前年同月比2.2%増となった。このうち、定期給与は237,697円で2.2%増となっている。総実労働時間では、158.5時間で前年同月比4.2%増となり、所定外労働時間では8.7時間で対前年同月比5.4%増となっている。平成16年3月の有効求人倍率は0.32倍で、前月と同水準となった。 …… 3
- (2-3) 物価 平成16年3月の青森県消費者物価指数は、総合指数で99.7となり、前月比0.2%増、前年同月比0.3%減となった。 …… 4
- (2-4) 個人消費 平成16年2月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比3.4%減の143億7千万円となったが、既存店ベースは前年同月比0.6%増と25ヶ月ぶりにプラスとなった。平成16年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は7,975台で、前年同月比2.9%の減となり、2ヶ月連続で前年を下回った。 …… 5
- (2-5) 住宅建設 平成16年3月の新設住宅着工戸数は439戸で、貸家、持家などの減少により前年同月比23.1%減となり、14ヶ月連続前年を下回った。 …… 6
- (2-6) 公共投資 平成16年3月の公共工事請負金額をみると、前年同月比35.7%減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。 …… 6

(3) 景気動向指数（平成16年2月分）…………… 7

先行指数	66.7%	(3か月ぶりに50%を上回った)
一致指数	75.0%	(3か月ぶりに50%を上回った)
遅行指数	42.9%	(2か月連続で50%を下回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成16年4月分）…………… 8

3ヵ月前と比べた景気の現状判断DI	47.0	(前期比0.9ポイント減、12期連続50を下回る)
3ヵ月後の景気の先行き判断DI	51.3	(前期比4.5ポイント増、初めて50を上回る)

1 青森県の推計人口（平成16年4月1日現在）

【概況】

平成16年4月1日現在の本県推計人口は、1,452,455人で、前月に比べ5,704人、前年同月と比べると、7,113人それぞれ減少となった。

○自然動態

出生者数が1,036人、死亡者数が1,279人で、243人の減少となった。

○社会動態

転入者数が4,532人、転出者数が9,993人で、5,461人の減少となった。

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数		死亡者数	社会増減数	県外からの転入者	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数				
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-	-
15.4.1	1,459,568	693,152	766,416	-0.408%	-5,973	-353	909	1,262	-5,620	4,746	10,366	
15.5.1	1,460,756	693,883	766,873	0.081%	1,188	-173	992	1,165	1,361	5,161	3,800	
15.6.1	1,460,557	693,699	766,858	-0.014%	-199	-165	999	1,164	-34	1,815	1,849	
15.7.1	1,460,426	693,599	766,827	-0.009%	-131	-53	992	1,045	-78	1,559	1,637	
15.8.1	1,460,013	693,336	766,677	-0.028%	-413	-49	1,069	1,118	-364	2,089	2,453	
15.9.1	1,460,389	693,613	766,776	0.026%	376	-75	1,000	1,075	451	2,639	2,188	
15.10.1	1,460,050	693,437	766,613	-0.023%	-339	-99	1,040	1,139	-240	1,842	2,082	
15.11.1	1,460,172	693,492	766,680	0.008%	122	-53	1,037	1,090	175	2,165	1,990	
15.12.1	1,459,893	693,300	766,593	-0.019%	-279	-205	870	1,075	-74	1,368	1,442	
16.1.1	1,459,478	693,077	766,401	-0.028%	-415	-248	896	1,144	-167	1,364	1,531	
16.2.1	1,458,897	692,740	766,157	-0.040%	-581	-415	998	1,413	-166	1,334	1,500	
16.3.1	1,458,159	692,330	765,829	-0.051%	-738	-296	912	1,208	-442	1,252	1,694	
16.4.1	1,452,455	688,993	763,462	-0.391%	-5,704	-243	1,036	1,279	-5,461	4,532	9,993	

3月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平7.3	8.3	9.3	10.3	11.3	12.3	13.3	14.3	15.3	16.3
自然動態	出生者数	1,154	1,061	1,103	1,150	1,152	1,007	989	997	909	1,036
	死亡者数	1,219	1,052	1,113	1,245	1,189	1,207	1,127	1,141	1,262	1,279
	自然増減数	-65	9	-10	-95	-37	-200	-138	-144	-353	-243
社会動態	県外からの転入者数	5,499	5,054	5,688	5,494	5,445	5,133	4,764	4,170	4,746	4,532
	県外への転出者数	11,897	11,217	11,474	11,750	11,178	11,241	10,284	10,224	10,366	9,993
	社会増減数	-6,398	-6,163	-5,786	-6,256	-5,733	-6,108	-5,520	-6,054	-5,620	-5,461

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成15年4月1日から平成16年4月1日までの人口は平成12年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 算出方法 県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

※5 これまで社会動態の算定には、県間移動数に加え県内市町村間移動数も含めていたが、県間移動数に修正を行なった為、過去の公表数値と異なっている。

※6 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

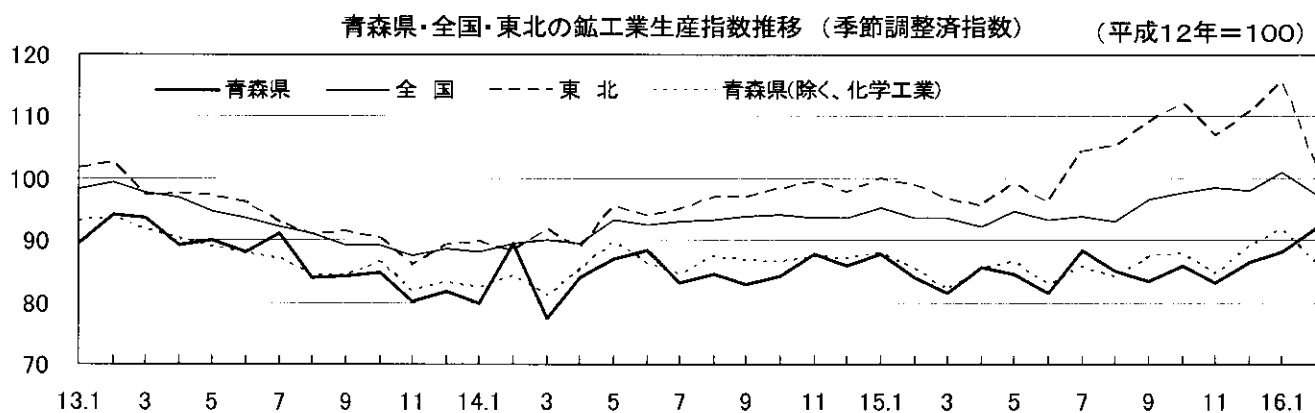
(2-1) 製造業の生産

平成16年2月の青森県鉱工業生産指数（平成12年=100）は、季節調整済指数が91.9で、前月比4.2%の上昇となり、3ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は85.3で、前年同月比12.2%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、輸送機械工業、石油・石炭製品工業などが上昇に寄与した一方、情報通信機械工業、食料品工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、鉱工業全体では4.2%の上昇となった。

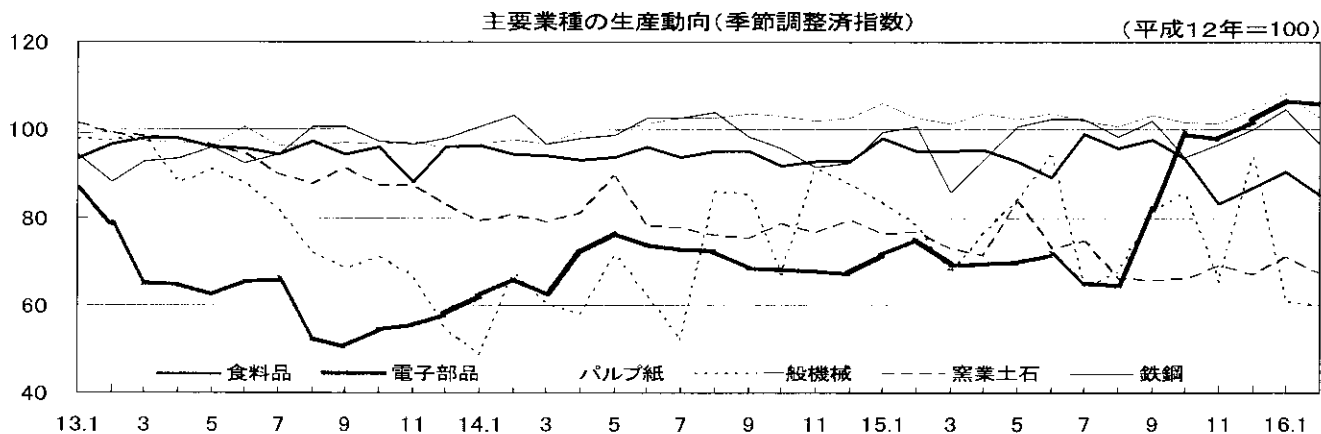
（化学工業を除いた指数について）

季節調整済指数が86.2で、前月比6.1%の低下（3ヶ月ぶり）、原指数が81.6で、前年同月比3.9%の上昇（3ヶ月連続）となった。



◎業種別動向（前月比）

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
(鉱工業)					
	4.2	100.0			
化学工業	339.7	370.2	情報通信機械工業	-72.2	-123.4
輸送機械工業	29.1	20.0	食料品工業	-6.0	-89.3
石油・石炭製品工業	314.3	17.4	パルプ・紙・紙加工品工業	-5.4	-31.3
精密機械工業	10.4	16.9	鉄鋼業	-7.5	-26.6
その他製品工業	24.2	15.0	繊維工業	-9.0	-21.2



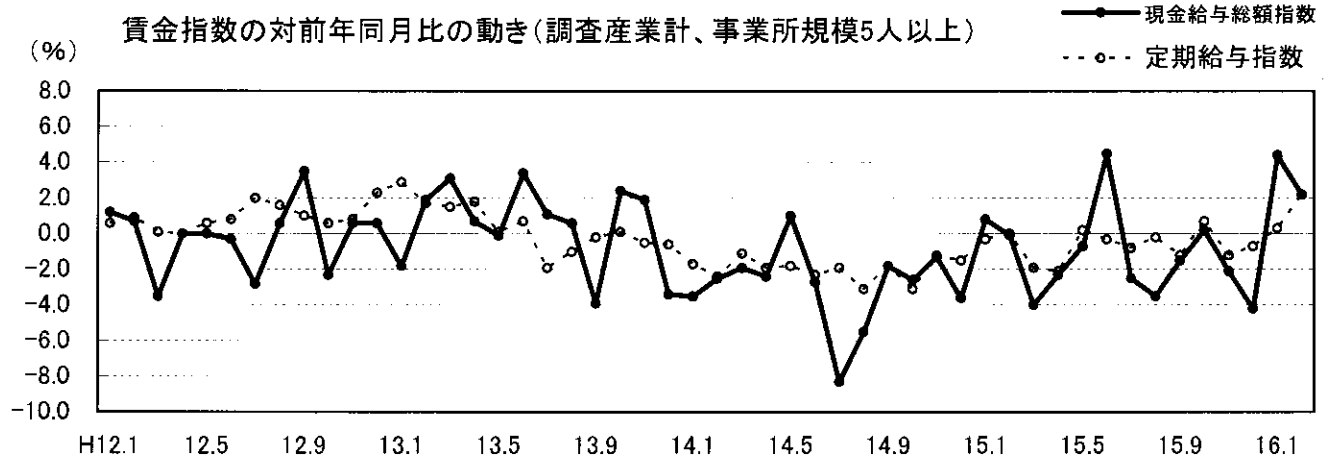
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用情勢

平成16年2月の現金給与総額は238,512円で現金給与総額指数(平成12年=100)では83.1となり、前年同月比2.2%増となった。このうち、定期給与は237,697円で定期給与指数では100.6となり、前年同月比2.2%増となった。実額で比較した定期給与の全国対比は87.5となった。

所定外労働時間は8.7時間で、所定外労働時間指数では101.2となり、前年同月比5.4%増となった。

平成16年3月の有効求人倍率は0.32倍で、前月と同水準になった。



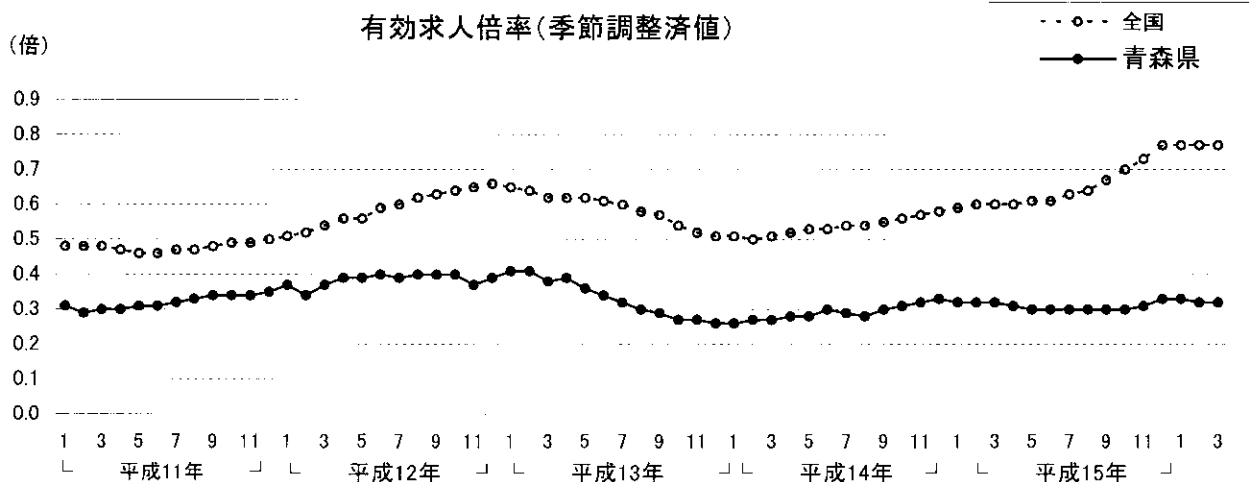
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	238,512 円	274,599 円	83.1	77.7	2.2 %	-0.4 %
定期給与	237,697 円	271,733 円	100.6	96.3	2.2 %	-0.5 %
特別給与	815 円	2,866 円	—	—	—	—
総実労働時間	158.5 時間	149.8 時間	99.9	97.1	4.2 %	0.2 %
所定内労働時間	149.8 時間	139.6 時間	99.8	96.7	4.1 %	0.0 %
所定外労働時間	8.7 時間	10.2 時間	101.2	103.0	5.4 %	3.0 %

(注) 1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



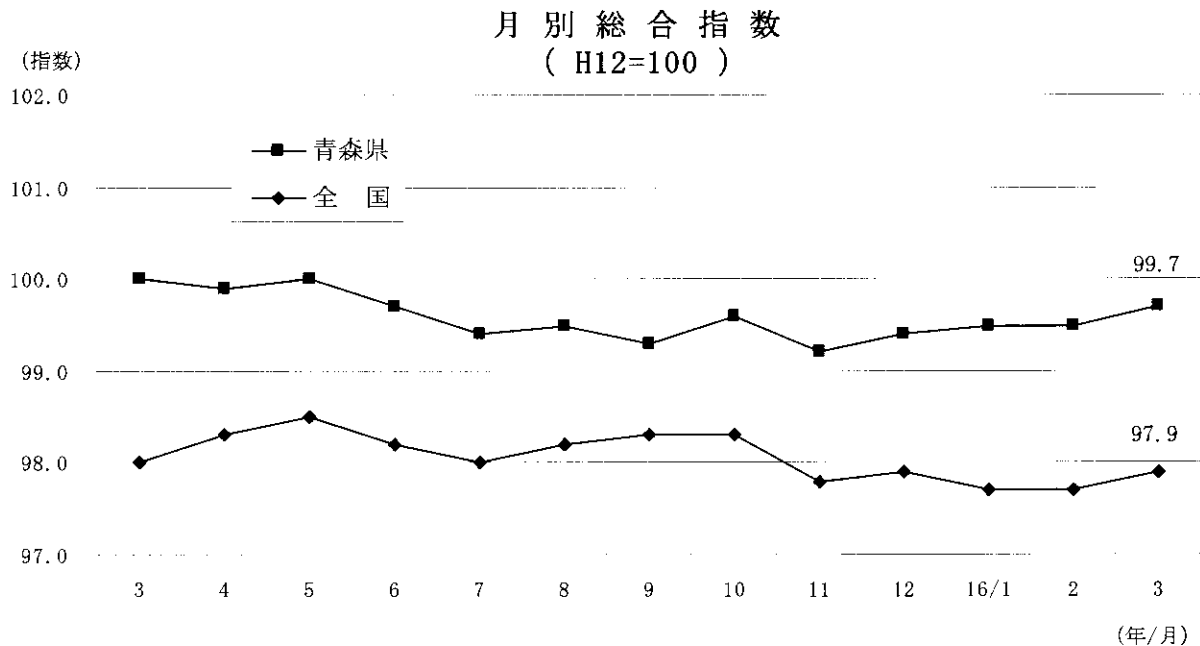
資料：青森労働局職業安定部職業安定課

(2-3) 物価

平成16年3月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で99.7となり、前月比0.2%増、前年同月比0.3%減となった。

前月指数と比較すると、「食料」は生鮮魚介（いわし、いか等）や生鮮果物（バナナ、みかん等）、「被服及び履き物」は衣料（男子ズボン、子供洋服等）の値上り等により上昇した。

「住居」は家賃（民営・公営家賃）、「光熱・水道」は他の光熱（灯油）の値下り等により下落した。



10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

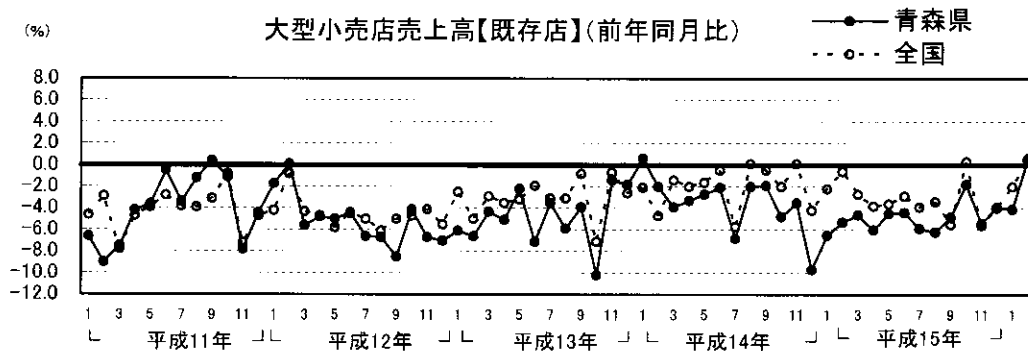
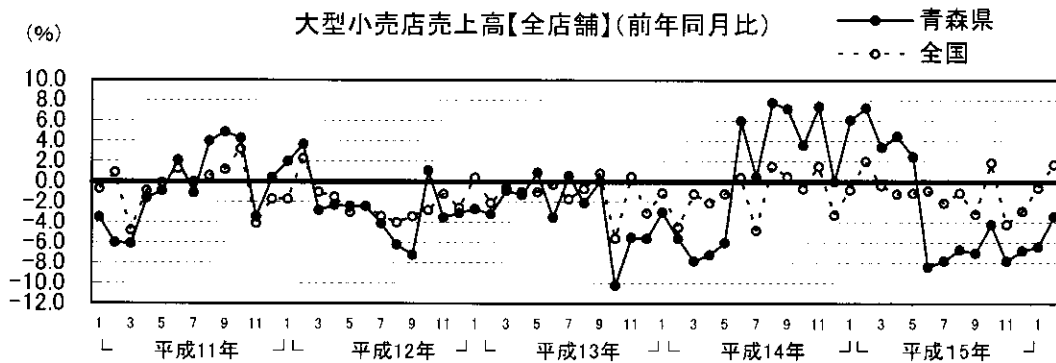
	総合	総合		食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履き物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
		(持ち家の 掃属 家賃を 除く)	(生鮮 食品を 除く)											
当月指数	99.7	98.6	99.5	101.4	104.2	104.9	99.2	92.9	94.3	107.6	96.4	100.9	90.5	103.6
前月比	0.2	0.4	0.2	0.3	1.4	▲0.3	▲0.2	1.5	2.5	▲0.1	0.3	0.0	0.7	▲0.1
前年同月比	▲0.3	0.0	▲0.4	0.8	2.7	▲1.4	▲0.4	▲1.2	2.9	3.4	▲1.8	▲4.0	▲2.2	3.8

資料：県統計分析課「青森県消費者物価指数月報」（速報）

(2-4) 個人消費

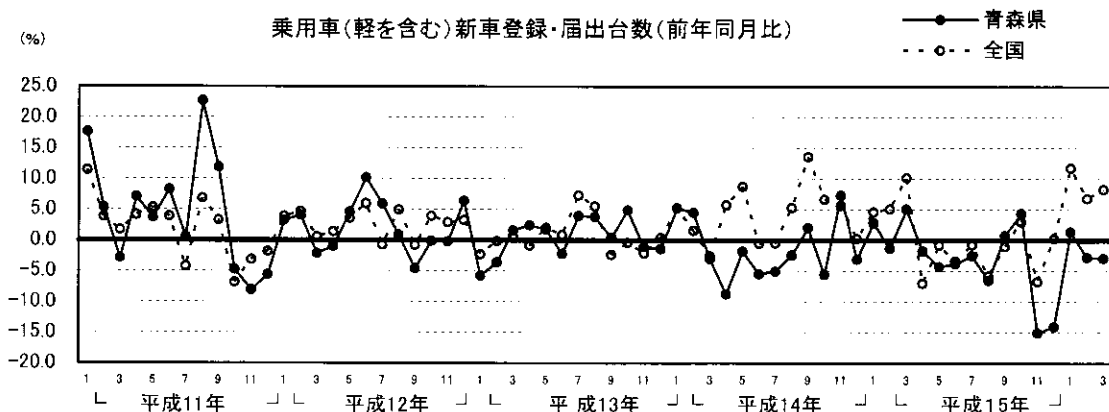
平成16年2月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比3.4%減の143億7千万円となり、9ヶ月連続でマイナスとなったものの、既存店ベースでは前年同月比0.6%増と25ヶ月ぶりにプラスとなった。内訳をみると、全店舗ベースでは飲食料品を除いてすべてマイナスとなったものの、既存店ベースでは、衣料品、身の回り品、飲食料品がプラスになったことにより前年を上回った。

平成16年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は7,975台で、軽乗用車は増加したものの普通乗用車が減少したことにより、前年同月比2.9%減となり2ヶ月連続で前年を下回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

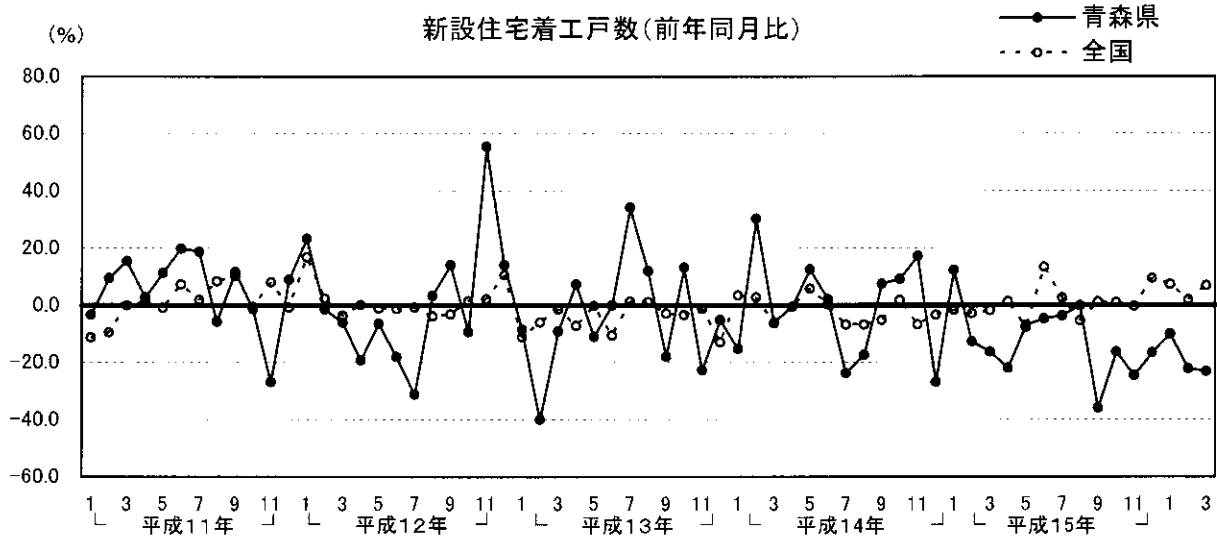


資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」

日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

平成16年3月の県内新設住宅着工戸数は439戸で、貸家、持家などの減少により前年同月比23.1%減となり、14ヶ月連続前年を下回った。

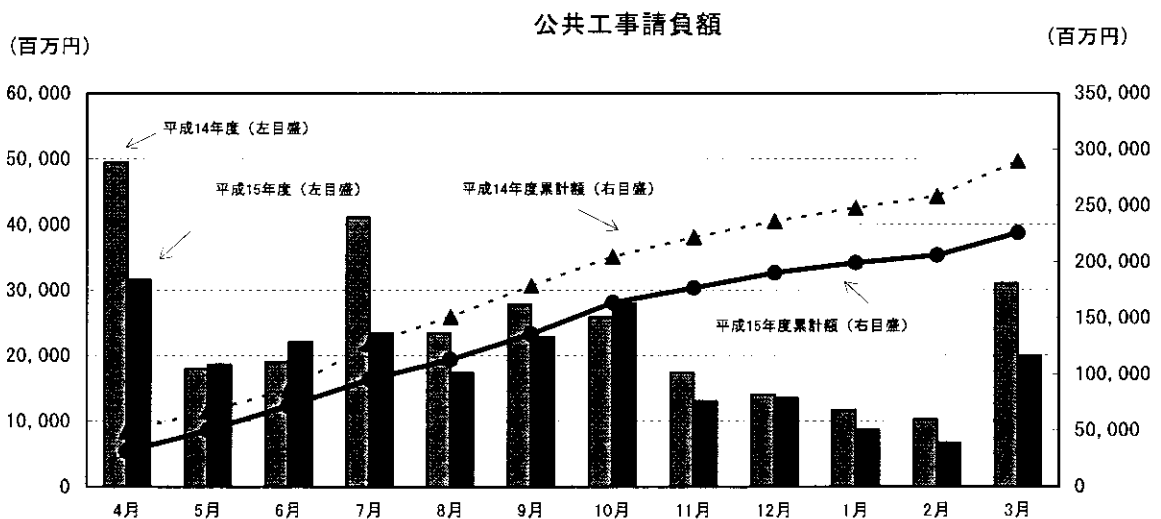


資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 公共投資

平成16年3月の公共工事請負金額をみると、単月では35.7%減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。発注主体別にみると、県が前年同月比5.3%と10ヶ月ぶりにプラスになったものの、国は同61.7%の減、市町村は同34.4%の減となった。

また、4月からの累計をみると、2,259億2千万円で、前年同月比21.9%の減となった。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(3) 青森県景気動向指数

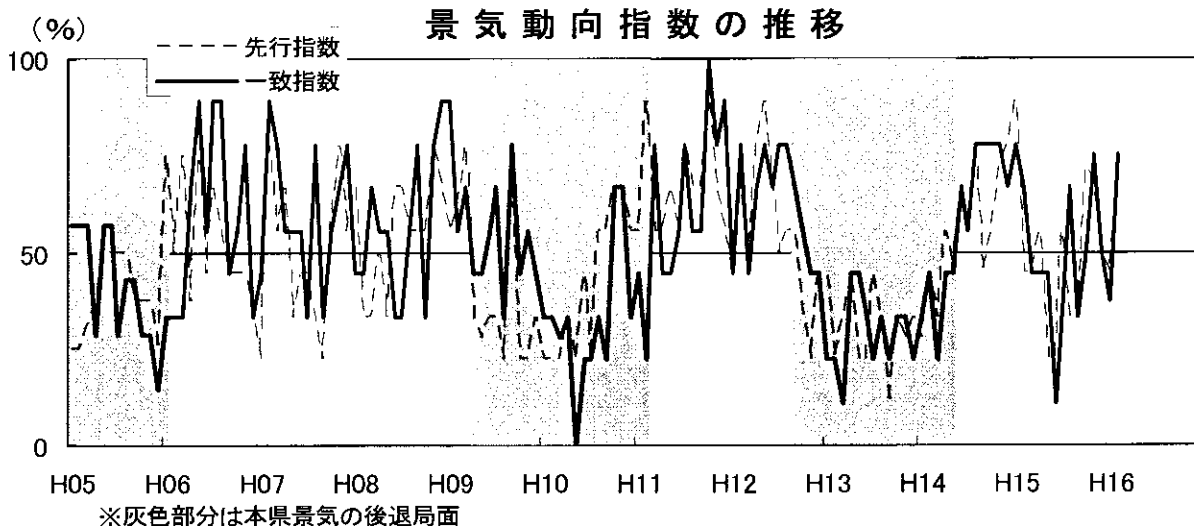
平成16年2月の青森県景気動向指数は、先行指数66.7%、一致指数75.0%、遅行指数42.9%となった。

先行指数は、3か月ぶりに50%を上回った。

一致指数は、3か月ぶりに50%を上回った。

遅行指数は、2か月連続で50%を下回った。

2月の一致指数は、雇用関連の指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中6指標がプラス）			
所定外労働時間指数（全産業）	6か月連続	入職率（製造業）	3か月連続
乗用車新車登録届出台数	2か月連続	中小企業景況DI	2か月連続
新設住宅着工戸数	2か月連続	建築着工床面積（鉱+商+サ）	4か月ぶり
生産財生産指数	2か月ぶり		
企業倒産負債額	2か月ぶり		
新規求人数（常用）	3か月ぶり		
一致系列（8指標中6指標がプラス） ※1			
電気機械生産指数	7か月連続	大口電力使用量	3か月連続
海上出入貨物量（八戸港）	3か月連続	日銀券月中発行高	3か月連続
鉱工業生産指数	2か月連続		
有効求人数（常用）	2か月ぶり		
雇用保険基本手当初回受給者数	2か月ぶり		
大型小売店販売額（実質）	9か月ぶり		
遅行系列（7指標中4指標がマイナス）			
輸入通関実績（八戸港）	3か月連続	常用雇用指数（製造業）	8か月連続
消費者物価指数（帰属家賃除く総合）	2か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月連続
1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり	信用保証申込金額	2か月連続
		単位労働コスト（製造業）	3か月ぶり

※1 一致系列の東北自動車道IC利用台数については、青森中央IC、青森東ICの開通による影響が大きいため、当面の間、判定に用いないこととする。

※2 毎月勤労統計調査の抽出替えにより過去に遡って指数の改定を行った。

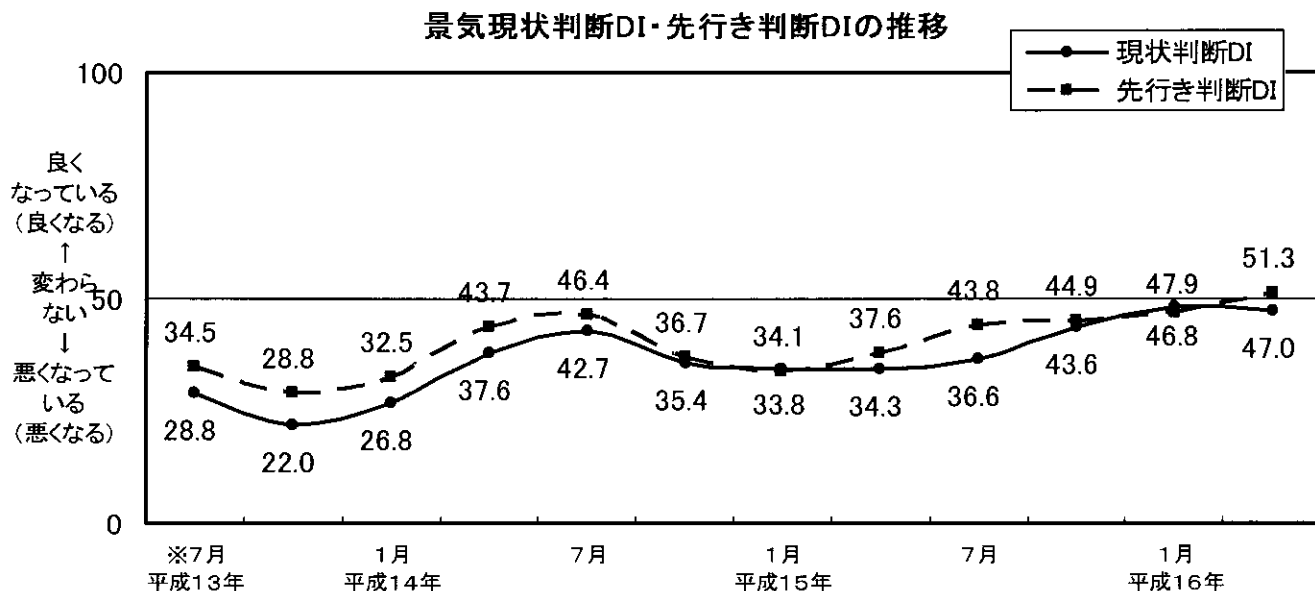
資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成16年4月期の景気ウォッチャー調査は、4月1日～4月26日を調査期間とし、回答率99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは47.0で、前期調査より0.9ポイント下回った。3か月後の景気の先行き判断DIは51.3で、前期調査より4.5ポイント増加した。

4月期は、現状判断DIは5期ぶりにポイントが減少したものの、景気の先行き判断DIは5期連続でポイントが増加し、調査開始以来初めて横ばいを示す50を上回った。



※平成13年7月は試行調査

● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が減少し、「変わらない」が増加したことにより、全体では0.9ポイント減の47.0となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、一部に売上の増加傾向が見られるという声があるものの、一方では、客単価の低下や年度末の公共事業減による影響があげられていた。</p>
向	<p>前期調査に比べて東青地区では横ばい、津軽、県南地区ではポイントが減少したものの、下北地区ではポイントが増加した。特に、県南以外の地区では「変わらない」が大幅に増加したものの、県南地区では「やや悪くなっている」が11.7ポイント増加している。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が9.4ポイント増加し、「やや悪くなる」が減少したことにより、全体では4.5ポイント増の51.3となり、5期連続で増加し調査開始以来初めて50を上回った。判断理由をみると、株価の上昇による市場への好影響や桜祭りをはじめとする観光シーズンの開幕に期待する一方で、消費税額を含む総額表示方法による割高イメージによって買い控えや実質値引きへの影響を懸念する声があった。</p>
向	<p>前期調査に比べて、全ての地区で「やや良くなる」が増加し、東青、下北地区で「やや悪くなる」が大幅に減少したことからポイントが増加した。特に、津軽、県南地区では、前回調査に引き続き横ばいを示す50を上回り、東青地区でも初めて50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考) 景気ウォッチャーによる景気判断理由 (一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 株式市場の値上がり、大企業の収益回復など、心理的に良くなっていると思う。中小企業の景況は良くなっていない。(経営コンサルタント=東青)
- 去年の12月から、連続4ヶ月間売り上げと客数が上向いてきている。競争店の状況不明だが、ちょっと明かりが見える。(スーパー=県南)
- 当店では、客数が増加傾向にあるが、一方で客単価は下降傾向にある。(コンビニ=津軽)
- 中央の企業では良くなっているが、地方の経済にまで感じられない。(ガソリンスタンド=津軽)
- 大都市部では、景気が良くなっているようなことが言われているが、地方は依然として厳しい。価格競争等により収益確保が難しい。(卸売業=県南)
- 年度末の公共事業関連の仕事が激減した。(広告・デザイン=津軽)
- △鳥インフルエンザ・BSE等一番身近な飲食産業の足を引くような話題が多く、買い控え(出控え)が進んでいるような気がする。(一般小売店=県南)
- △青森のような地方都市は、行政の予算しだいで、上にも下にもなる。(観光名所等=東青)
- ×新幹線効果も薄れた中、地元の方の消費も相当落ち込んでいるような感じがする。(一般飲食店=県南)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 4月に桜祭りと春のねぶた運行もある事から、観光客の増加が新幹線効果との兼ね合いからも期待できる。(商店街=津軽)
- 株価12,000円を超え、倒産件数も減少しているというニュースによって、心理的な面が市場に良い影響を与えてくると思われるから。(広告・デザイン=東青)
- 中央の動きが上向きつつあり、期待感もあるが、地元への波及効果は暫く先になりそう。(新聞社求人広告=東青)
- 大企業で中国に進出とかデジタル関連の業種、またリストラの完了した企業はそれなりに良いと思いますが、地方の零細企業はまだです。(スナック=下北)
- 消費税総額表示導入により割高感を消費者に与えている。慣れるまで、消費が落ち込みそうである。(ガソリンスタンド=津軽)
- △総額表示が、個人需要に悪影響を与える事を予測。業態によっては、実質的な5%を値下げにより、売り上げ減もありうる。(百貨店=東青)
- △消費税総額表示が消費者心理に微妙に影響を及ぼす。(商店街=県南)
- ×財政再建に取り組むなか、公共工事が確実に減少していき、更に競争の激化から、採算性の低い工事が増えている。(建設=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている